

お詫び:会報の発行が遅くなりました

いつも「じゃなかしゃば」をお読みいただき、ありがとうございます。

昨年、長年使っていた印刷機が故障し、修理に時間がかかってしまったため、発行が遅くなってしまいました。今年度、3回発行する予定でしたが、2回のみとなりました。大変申し訳ありません。来年度は予定通り発行いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

告知板 最新の情報はホームページで確認してください

■馬込町団地広場清掃 毎月第2・第4土曜日 10:00~11:30

4月12、26日(土)/5月10、24日(土)/6月14、28日(土)

■おしゃべり会 毎月第3金曜日 10:30~12:00

お子さんの学校生活で困っていることなど、いっしょに話してみませんか?

4月18日(金)/5月16日(金)/6月20日(金) 1オーダーをお願いします

■チャリティアロマ教室 毎月第4火曜日 14:00~15:30 (その後、ティータイム)

4月22日(火)/5月27日(火)/6月24日(火)

参加費:1500円位+1オーダー

■だれでもカフェ 第1木曜日 14:00~16:00 ※1月と8月は休み

だれでも参加して、おしゃべりやゲームなどをするカフェ。ドリンク200円、ケーキ100円です。

4月3日(木)/5月1日(木)/6月5日(木)

■バザーデイ 毎月第2火曜日 10:00~14:00

2025年4月から、毎月第2火曜日は「バザーデイ」とし、バザー品の販売と整理のみおこないます。カフェはお休みになります。

船橋本町通り商店街「きらきら春のゆめひろば」 5月10日(土)11:00~16:00

船橋市本町通りで開催されるNPOと商店街の協働イベント。ひなたぼっこは「コリントゲームコーナー」を出店。その他、バザー、手作りクッキーやトブレさんの限定パンなどを販売予定です。おひさまバンドも出演します。ぜひ、いらしてください♪

※ゲームの景品を集めています。ぬいぐるみや雑貨、文具などのご寄付をお願いします。

【編集後記】◆今年の初詣で引いたおみくじはなんと「大吉」。よしよしと喜んでいたら、問題発生! ◆正月明けにお風呂掃除の後、急に胸のあたりが痛み、接骨院に駆け込んだ。「小胸筋を痛めた」と説明があり、しばらく治療に通っている。◆健康診断の結果でr-GTPの値が上がってしまい、酒注意報! トホホ(+ +) ◆年齢相応に無茶(?)をせず、ご機嫌に過ごしていきたいと思う。そして一日の終わりは、やはりほどほどの🍷で。(C・Y)

発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会 川口市芝新町15-9 アステール藤野1階

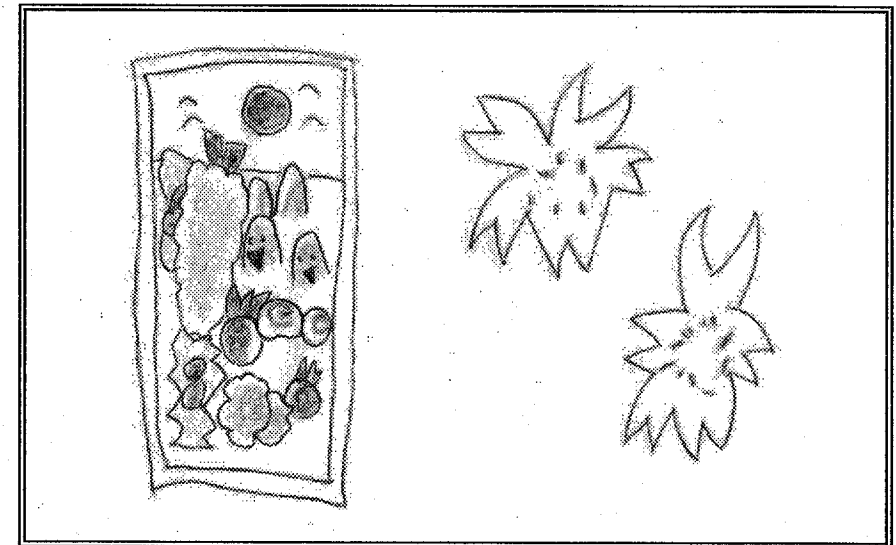
編集人 NPO法人ちばMDエコネット 船橋市本町4-31-23

定価 150円

SSTK

じゃなかしゃば

No.245



「お花見楽しみ〜」 山本江美子

〜ひなたぼっこ便り〜

誌名「じゃなかしゃば」は、九州水俣地方の方言で「今のようでない世の中」という意味。

私たちは障害のある人もない人も共に生きる社会をめざして活動しています。

【発行人】 埼玉県障害者団体定期刊行物協会 川口市芝新町15-9 アステール藤野1階

【編集人】 NPO法人ちばMDエコネット/理事長 堀江 清

〒273-0005 船橋市本町4-31-23 TEL/FAX 047-426-8825

Eメール: sun@mdeconet.jp

ホームページ: <http://mdeconet.jp/>

郵便振替口座: 00150-6-404243

口座名: NPO法人ちばMDエコネット

小学生の「町はっけん」

カフェひなたぼっこの近くには、船橋市立船橋小学校があります。学校が終わると下校する小学生の声が賑やかに聞こえてきて、カフェに立ち寄って挨拶してくれる子もいます。

昨年12月、船橋小学校の2学年担任の先生からお電話がありました。「2学年の生活科で『町はっけん』の学習を計画しているのですが、子供たちからひなたぼっこさんに行きたいと意見が出ました。お忙しいと思いますが、子供たちの質問にお答えいただけないでしょうか」とのことでした。小学生からひなたぼっこの話が出たことはとても嬉しいことで、喜んでお受けしました。事前にいただいた用紙には7つの質問が書かれていました。子供たちの視点から、意外な質問もありました。答えを考えて、インタビューの準備は OK です。

当日は、2学年の2クラスからそれぞれ1グループずつやってきました。「おはようございます。町はっけんで来ました。よろしくおねがいします」と元気な声。早速、質問タイムです。

小学生：「何のお店ですか？」

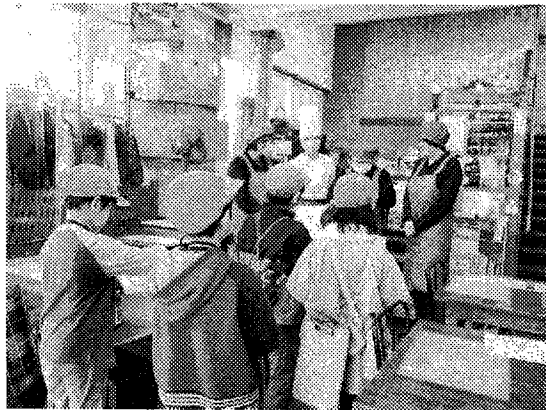
スタッフ(晴香さん)：「カフェです。外ではバザーで品物を売っています」

小学生：「おすすめのものは何ですか？」

スタッフ(晶生さん)：「ランチではオムライスです。ケーキはいろいろな種類があります」

小学生：「なぜやすいんですか？」

店長：「外の品物のことかな？ 寄付でいただいたもので、安く販売しているんですよ」
いろいろな質問が出ました。その後、店長がコーヒー豆の写真を見せて、説明しました。豆の焙煎など、初めて知ることばかりだったのではないのでしょうか。皆、真剣に話を聞いていました。



質問の答えを忘れないようにメモ



タブレットで店内を撮影

タブレットを片手に「店内の様子を写真に撮ってもよいですか」と聞いて、キッチンでスタッフが働く様子や、壁に貼った看板やメニューをカシャ、カシャ、と撮影。「これも撮っておいたらいいよ」とお互いに声を掛け合っていました。後ろでは付き添いの保護者の方が見守っていました。それぞれ15～20分くらいで終了し、お礼のあいさつをして帰っていきました。ひなたぼっこのスタッフの受け答えもバッチリでした。

例案の成立に向けて議論が広がってきている、その議論を絶やさないでほしい、灯を消さないで、という切実な声が私の元に届いています。どのような場面においても敵対関係になるのではなく、話し合いによって理解し合い解決していくというのがこの条例の趣旨であり、それに沿って考えれば、ここはいったん撤回することにして、引き続き議員のみなさまと十分な話し合いをしていくべきだと考えました。障害者、家族、関係者ら実に多くの人々が、この条例が成立するのを待っています。9月に再提出させていただきたいと思います」。

これを受けて、条例の6月議会での取り下げが決定しました。閉会し議員全員が退場したあと、堂本知事ひとりが議場に立ち尽くしていました。そのとき傍聴席から期せずして拍手が起こりました。拍手しながらみんな泣いていました。取り下げはつらい、でも否決されてしまったら何も残らない……ぎりぎりの選択でした。知事は傍聴席に向かって深々と頭を下げました。そして最後の一人が出ていくまで見送っていました。

(続く)

地域活動支援センターひなたぼっこ 利用者さん(スタッフ)募集！

ひなたぼっこでは、一緒に活動する仲間を募集しています。

障害者手帳をお持ちの方(手帳以外の診断書などでも可)が対象です。

コミュニティカフェひなたぼっこを開いて 23 年。地域の方々との交流がたくさんある場所で、カフェの接客、バザー品の整理などをおこないます。その他に、新聞の折り込みや配布、高齢者施設や広場のそうじなどがあります。希望者は、軽運動、バンド演奏などの活動にも取り組んでいます。

「日中通う場所を探している」「短時間でも人と関わることがしたい」「週に 2 日くらいでも行ける所があると良い」など、お考えの方がいらしたら、お気軽にお問い合わせください。お待ちしております。

<問い合わせ> 047-426-8825 (担当:山本)



【開所】火曜～土曜
(日・月・第 1 土曜定休)
【時間】9:15～18:00 の間で
1～6 時間程度
【日数】週 1～5 日の間で調整
【内容】上記作業や活動の中で
相談して決めます
【通所】ご自分で通う形
※送迎はありません

「差別なんかないんだよ」と言われて

—障害者差別をなくすために その③—

山田晴子

障害者差別解消法が2024年4月に改正されました。エコネットでは障害のあるスタッフをはじめ、関係者全員に差別や虐待についての研修をおこないました。この機会に、会報前々号(243号)から千葉県差別をなくすための条例のことを連載でお伝えしています。

* * *

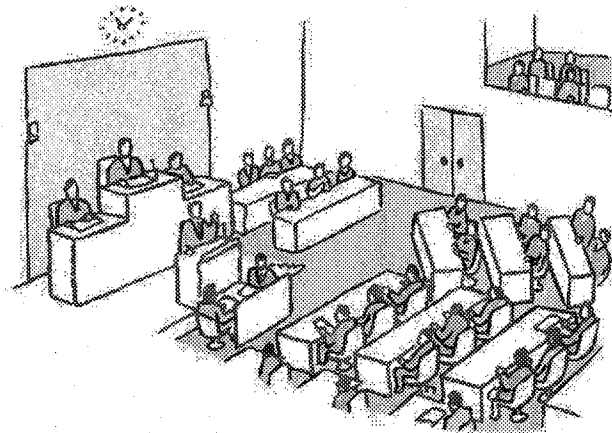
「差別なんかないんだよ」とは、県議会で「障害者差別をなくすための条例」案が審議されていた頃、船橋市選出の自民党県議会議員が言ったことです。

2006年2月に堂本知事が条例案を県議会で提案すると、議員多数の反対に直面し、外部からの強い批判もあり、県議会で継続審議になってしまいました。「差別をなくすという理念には賛成だが、個々の条文には反対」という意見や、「差別なんかない、条例は必要ない」という意見もありました。

そこで「障害者差別をなくすための研究会」の委員たちや条例の成立を願う人たちが、「県議会を傍聴して私たちの願いを伝えましょう」と必死の呼びかけをしました。6月議会では、障害当事者の方々、親の会、そのほか多くの県民で150余の傍聴席が満席になりました。これは県議会始まって以来のことでした。

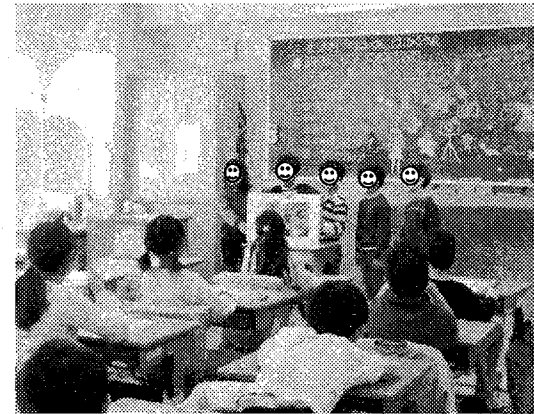
しかし、まだ議会では多数の理解が得られません。「修正に応じる」という知事に対して「いったん取り下げて再提出すべき」という意見が突き付けられました。知事は、研究会の意見を聴きたいと緊急に招集しました。委員たちは「ここで提出して否決されたら、条例の灯は消えてしまう。灯を消さないために、条例の基本理念の通りに話し合いを尽くしていきましょう」と次々に発言しました。そこで知事はいったん取り下げるほかはないと決断しました。

私たちは、知事が取り下げを議会に諮った7月3日の本会議を傍聴しました。知事は次のように言いました。「今も誤解と偏見のために社会生活のさまざまな場面でつらく、悲しい思いをしている障害者の方々がいいます。・・・よりよい条例にするため今議会で修正することを検討してきましたが、修正するなら原案を取り下げるべきだとの意見がありました。そこで、さまざまな人から意見を聴いたところ、条



その後、訪問した子供たち一人ひとりの感想が書かれたお礼状をいただきました。「コーヒー豆のにおいがかがせていただきありがとうございます。これからがんばってください」と、コーヒー豆の香りのことや、励ましの言葉もありました。

1月には、「町はっけんの発表会を聞きにきてください」とご案内をいただきました。スタッフの西村舞子さんと施設長の山本佳美で出席しました。船橋小学校は、今年で創立153年という古い小学校です。2014年に建て替えられて、きれいな校舎と明るい教室でした。発表会には、他のお店や図書館の方も来ていました。



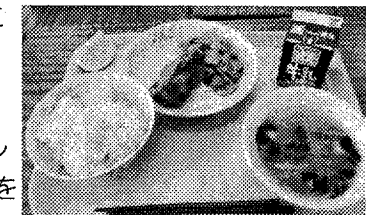
「ひなたぼっこの店内の様子です」



「答えは〇でしょうか、×でしょうか」

2クラスそれぞれの発表を聞かせてもらいました。紙しばい形式で、絵や写真をたくさん使って作られていました。クイズも取り入れて工夫していました。最後に「ひなたぼっこで働く人はどんな人でしょうか」という問いがありました。どんな答えなのかと思って聞いていると、「①障害のある人、②普通の人、③障害のある人と障害のない人」。子供たちは「③でしょ～」と答えていました。他に、稲荷屋さん、嶋村写真館、中央保育園、森田呉服店など、模造紙に絵を描いたり、モニターに画像を映したりと、いろいろな方法でびっくりしてしまいました。

午前中の発表後、私は給食もいただきました。ひなたぼっこに来てくれた子供たちの班と一緒に話をし、楽しいひとときでした。メニューに白身魚の南蛮漬けがあったのですが、先生が「今日の魚はこれですよ」と、モニターに「そい」の写真を出すなど、私の小学生時代(およそ40年前)からの時の流れを感じたのでした。でも、おかわりをする風景は同じですね。



大人用に大盛りかも?

先日、カフェに親子連れのお客様がいらしたのですが、娘さんが船橋小学校の2年生で、「町はっけん」の保護者向け発表会でひなたぼっこの話を聞いたとのこと。前からお店があるのは知っていたけれど、中に入ったことがなくて気になっていたそうです。話を聞いた後、バザー品を見てクッキーを買って帰り、今度は娘さんと一緒にケーキを食べに来て、「どれも甘過ぎず美味しかったです」と話してくれました。ボックスショップの商品も購入して、「また来ます」と帰っていきました。発表会后、親子連れで来てくれる方が増えてきている印象です。これからさらに、地域とのつながりを作っていきたいと思います。

(山本佳美)

おしゃべりに来ませんか?

佐藤薫(ちば MD エコネット 学校サポーター)

毎月第三金曜日にカフェひなたぼっこで、おしゃべり会が開かれる。カフェ特製のケーキやお茶をいただきながら、障害をもつ我が子の、学校のこと、進路のことなどさまざまな悩みや思いを語り合う。おしゃべり会に集まるメンバーはその時々によって違う。話したいことがある時に、気軽に参加できるのが会のよいところだ。

S さんはほぼ毎回参加してくれる常連のメンバーだ。息子の K 君が小学校に入学する際、普通級で学ばせたいと考え、おしゃべり会に参加したのが最初だったと聞いている。その後も、学校の友達関係、勉強、部活、進学、そして就職と、子育ての悩みにぶつかるたび、S さんはおしゃべり会で気持ちを打ち明け、仲間たちは耳を傾けてきた。その K 君は、昨年成人し、就職も果たした。お母さんと一緒に会に参加してくれることもあって、成長した彼の話を聞くことは、参加者たちの楽しみのひとつになっている。勉強や仕事に対する自分なりの考え、人間関係で悩んだ時には気持ちをどう切り替えるか。彼のひと言ひと言に成長を感じ取ることができ、参加者たちは目を細めて「逆に勉強させてもらっているね」と笑い合っている。



話に夢中で、あっという間に時間がたってしまう

子育ての悩みは就学問題にとどまらない。就職やその先までずっと、話したいことがあると通って来る長いお付き合いの参加者が多いことも会の特徴だと思う。来し方を共に振り返り、決して平坦ではなかった道のりを子どもと一緒に歩んで現在に至っていることを仲間が思い出させてくれる。

一昨年、学校相談支援事業を行うエコネットに、保育園入園に関する相談が入った。これをきっかけに、最近では入学前のお子さんを育てる若いお母さんの参加も増えてきた。ひとりの若いお母さんの悩みに、「うちの子のときはこうだったよ」と先輩ママたちが自身の経験を語る。解決の道はひとつではないし、誰かが語った言葉がその日のお土産になるかもしれない。障害をもつ子どもの子育てという同じ経験をもつ者同士だからこそ分かり合える。ひとりで抱えこむのをやめて誰かに聞いてもらうだけでも、気持ちは想像以上に軽くなるものだ。

何年も来ていなかった人が、久しぶりにやってくるということもある。会に流れる空気感は何年たっても不思議と変わらない。語り合ううち笑顔が増え、「話せて良かった。毎日忙しくて余裕がないけれど、また来ます」。

2 月 23 日には、難病児・障害児親の会とエコネットとの共催で映画「ひなたぼっこ」の上映会と交流会がもたれ、おしゃべり会のメンバーも参加した。このような交流を契機として、若いお母さん方にもおしゃべり会の仲間入りをしてもらえると大変嬉しい。こんな居心地のよい場所、ありそうでないと感じている。

ボランティアの記 ⑨

今回は、カフェボランティアの高野菜都美さんです。普段は、企業のカスタマーサポート部門のコールセンターに勤務していて、月に2〜3回来てくれています。

支え合うことの大切さ

高野菜都美



「いらっしゃいませ」

私が初めてボランティア活動をしたのは、小学生のころです。近所のこども館の職員さんに声をかけていただき、ごみ拾いなどの活動をしました。今思うと、この経験があったからこそ、ボランティアを身近に感じるようになったのかもしれませんが。

その後は、大学時代に東日本大震災の復興支援活動をする機会がありました。教育や漁業・農業の支援活動などの活動を通じて、貴重な経験をさせていただくとともに、人の温かさを強く感じました。この4年間を通じて、ボランティアは誰かのためにする一方的なもの

ではなく、相互の関わりによって成り立つもの、という意識に変わりました。

今回はそうした経験から、継続的に関わられる活動をしたいと思い、「ちばボランティアナビ」に登録しました。その中でも接客が好きだったため、カフェボランティアの募集をしているひなたぼっこの活動に応募しました。初めて面接でひなたぼっこへ伺った際に、スタッフの皆さんが「いらっしゃいませ」と明るい声で出迎えてくれたことが強く印象に残っています。今でも、接客ルールや仕込みの仕方など、わからないことがあれば丁寧に教えてくれます。皆さんが温かく受け入れてくれて、感謝の気持ちでいっぱいです。

そんな皆さんと活動する中で改めて気づいたことが、「強みを伸ばすこと、お互いを尊重することの大切さ」です。普段仕事をしていると、「どうしてもっと早くできないんだろう」、「なぜ上手くいかないんだろう」と、できたことよりもできなかったことの方に目が向きがちです。忙しさにかまけて、そうなっていることに気づくことすらできずに毎日が過ぎていきます。

しかし、ひなたぼっこで活動していると、誰もが得意なこと・苦手なことがあるのだから、できないことは補い合い、得意なことを伸ばせばよい、と感じます。なぜなら、ひなたぼっこでは困っている人がいれば誰かが進んで手を差し伸べてくれるし、得意なことには率先して対応しているからです。それはスタッフの皆さんの人柄はもちろん、本郷さんや山本さんが一人ひとりを理解して、苦手なことはフォローし、得意なことは伸ばすよう尊重してくれているからだと思います。それでも上手くいかないこともあります。このような環境で活動できることを大変有難く感じています。まだまだ学ぶばかりですが、皆さんへお返しできるようがんばります！